

FFGのお取引先企業をご紹介します。

### リバテープ製薬 株式会社

代表取締役社長 **杉山 宏治氏**

取引店 福岡銀行 熊本営業部



### 株式会社 末松電子製作所

代表取締役社長 **末松 弘氏**

取引店 熊本ファミリー銀行 松江通支店  
福岡銀行 熊本営業部



### 九州テレ・コミュニケーションズ 株式会社

代表取締役 **太田 亨氏**

取引店 親和銀行 本店営業部  
福岡銀行 箱崎支店





## リバテープ製薬 株式会社

代表取締役社長

# 杉山 宏治氏

創業：1878年

設立：1960年5月

所在地：熊本県熊本市

資本金：1億円

従業員：250名

事業内容：医薬品、衛生材料、化粧品、健康食品等の製造および販売

営業拠点：熊本県熊本市(本社・工場)、熊本県菊池市(工場)、東京都新宿区、大阪府大阪市(営業所)

### 当社の歴史

#### ～西南戦争がきっかけ～

- 本社のある熊本市植木町は、「田原坂古戦場」にほど近く、当社の歴史は、今から130年以上前の「西南戦争」まで遡ります。

1877年(明治10年)春、激戦地となった田原坂では多くの死傷者が出て、周辺民家では担ぎ込まれた負傷者を官軍賊軍の区別無く看護しました。ある日、薩摩軍の軍医が重傷を負って担ぎ込まれた際、「傷ついた兵士にぜひ役立てて欲しい。」と薩摩軍秘伝の膏薬の調合方法を、介抱していた星子亀次郎少年に伝え息絶えました。亀次郎少年は約束通り伝え聞いた製法に基づき、翌年の1878年に膏薬製造を開始し、膏薬は「ほねつぎ膏」として普及していきました。当社はこの1878年(明治11年)を創業年としています。

その後、亀次郎は複数の内服薬・外用薬を製造販売し、1902年(明治35年)に屋号を「星子旭光堂」と定め、現在の基礎を築きました。

製薬会社として実績を重ねてきましたが、膏薬の技術とアメリカ

軍が使用していた救急用包帯をヒントとして、1960年(昭和35年)に傷口の保護と同時に消毒も行い簡単に剥がすことが出来る日本で最初の救急絆創膏を開発しました。消毒薬「リバノール」を付けたテープということから「リバテープ」の商品名で販売を開始したところ、広く家庭に普及していきました。その後1972年(昭和47年)に会社名を商品名と同じ「リバテープ製薬」へと改称しました。

### 現場の声を反映した商品開発

- 当社では、リバテープなどの家庭向け商品の他に、医療機関向けの商品を取り扱っています。特に最近は、院内感染の予防意識が高まっていることもあり、消毒薬などの医療機関向け製品の需要が増加しています。当社では、開発から販売までを一貫して行うことが出来る体制を整えており、医療機関の現場の声を取り入れた製品を開発しています。

例えば、傷口を消毒する消毒薬では、「容器に入れたままの消毒薬に綿球を何度も入れるのは不衛生ではないか」との疑問から開発したのが、消毒液と綿棒をセットにした個別包装の使いきりタイプ消毒剤「スワブスティック(商品名)」です。ピンセット等の器具は一切不要となり、また器具洗浄の必要性もなく、従来よりも導入コストが低くなります。さらに携

帯性にも優れており訪問看護や往診時における利便性も高く、現在では全国の特定機能病院(大学病院等)の約7割で採用されています。

また、当社の伝統的製品である絆創膏についても、現場のニーズに合わせて進化させています。絆創膏を長時間にわたって貼る場合、かぶれを気にする方がいらっしゃいます。そこで当社は、厚さが0.01mmと世界で最も薄いため、皮膚に与える刺激も少なく、かぶれにくい絆創膏である「フレックスケア(商品名)」を独自に開発しました。2007年に、ドイツで毎年開催されている医療器具の世界最大級の見本市「メディカ」に出展した際には、初出展であったにも関わらず192社もの外国企業やバイヤーから「フレックスケア」に関心を示して頂きました。

### 会社の飛躍、社員の意識向上を目指して

- 当社は、「企業は人なり」を経営理念としています。より良い製品づくりこそが社員一人一人の健康と豊かな未来を創るものと信じて、品質管理、開発、生産など様々な分野において社員一人一人が「創意・熱意・誠意」を持ちながら、たゆまぬ努力を続けるように指導しています。

また、現場の声やニーズを「カタチ」にするには、若い人たちの

柔軟な発想力や行動力も必要であると考えています。次世代のリーダーを養成するべく階層別での研修も行っています。

### これからも愛される商品づくりにむけて

- 国内では少子化に伴い、擦り傷などをしやすい一番のリバテープのユーザーである子どもが減っていることもあって、絆創膏の市場が縮小しているため、当社では海外市場にも目を向け販売強化に取り組んでいます。

既に、アジア・ヨーロッパ地域には製品の輸出を行っており、特に中国では上海事務所<sup>1</sup>を開設し、リバテープを「利巴泰」という商品名で商標登録しています。今年アメリカに本格的に進出することを目指しており、まずは西海岸のロサンゼルス近郊を医療機関向け商品の販売拠点とする予定です。既に現地法人設立の準備を行うために社員を現地に派遣しています。巨大なマーケットであるアメリカにおいて、フレックスケアをはじめ

めとする当社の商品が、どれだけ現地に受け入れられるか、非常に楽しみです。

また、6年前からネット販売や通販などの直販事業を行っています。直販事業では、熊本らしい「馬油」を使ったクリームや石鹸などの化粧品のほか、育毛成分を配合したシャンプーやトリートメントの「リマージュ(商品名)」シリーズが特に好調ですので、引き続き力を入れていきたいと思っています。

さらに、フレックスケアの開発で培った技術を応用し、ビタミンCなどを配合した粘着シート型的美容シートを商品化したほか、今後についても、同じように皮膚から薬剤を吸収するテープ製剤の開発などを行う予定です。

創業から100年以上培ってきた「ものづくり」の思想を大切にしながら新たな目標を掲げ、全員参加型の企業経営に取り組んでまいります。

<sup>1</sup> 上海事務所については、小報2009年7月号にてご紹介しております。



福岡銀行  
取締役頭取 谷 正明

世界一薄い絆創膏や、使い捨てタイプの消毒剤といった商品を独自で開発され、海外の企業などから多くの関心が寄せられていることは、世界水準の技術力を有している証明であると思います。

今後も、その高い技術力をもとに新たな商品を開発され、日本国内だけでなく世界も含めた市場開拓により、ますますご発展されることを期待しています。



フレックスケア



第二工場



工場内部の様子



製品(スワブスティック)の説明



左から池田総務部次長、星子常務、川波熊本営業部長、谷頭取、杉山社長

## 株式会社 末松電子製作所

代表取締役社長

## 末松 弘氏

設立：1975年1月

所在地：熊本県八代市

資本金：1,000万円

従業員：65名

事業内容：害獣侵入防止用電気柵の製造販売、  
パルスパワー関連機器の研究開発

営業拠点：熊本県八代市(本社・工場)、鹿児島県屋久島町(駐在所)

農家のニーズを商品化し、  
新分野に参入

- 「イノシシに田畑を荒らされて困っている...」

当社の始まりは、近くの工場から依頼され電気制御盤などの修理を行っていた私が、農家の方から受けた個人的な相談がきっかけでした。

私の生まれ育った八代市近隣の農地をはじめ、日本の国土面積の7割を占める「中山間地域」は農地と森林が隣接しているため、野生鳥獣による被害が多発しています。かつては、害獣を防止する手段は「農家の方が夜間に見回りをして防ぐ」のが一般的でした。

実際にイノシシに踏みつけられた田畑の被害の状況を目の当たりにし、多くの農家の方からご苦勞を直接お聞きするうちに、次第に防止装置の開発に没頭する日々が続きました。

試行錯誤で始めた防止装置の開発は容易ではなく、「音を出すこと」や「光を出すこと」で侵入を防ぐものなど様々な試作品を製作しました。しかし、動物には高い学習能力があり、いずれの方法も

根本的な解決にはなりません。研究を重ねるうちに、動物は、「電気ショックによる痛み」には慣れることはなく、効果が持続することが分かりました。

ようやく出来上がった電気柵は、今の製品と比べると、その効果は小さいものでしたが、相談を受けた農家の方からは大変喜んでいただけの製品となりました。そのときの感動から、「電気柵を商品化すること。」を一生の仕事にしようと決意し、会社を設立しました。

この時の経験が、徹底した「お客様第一主義」という企業理念を現在に引き継ぐ理由となっています。

## 国内で唯一の害獣防止電気柵専門メーカー

- 電気柵の、仕組みは至ってシンプルです。侵入を防ぎたい場所(周囲)に電線を張り巡らせ、害獣の侵入を防止するというシステムです。シンプルに見える仕組みですが、実はこのシンプルな仕組みにこそ、当社のノウハウが詰まっているのです。例えば、動物ごとに生態や習性が異なることから、衝撃を与える電流の強さ(人には影響のない程度の電流)や通電時間を変えていますし、動物の大きさごとに電気柵の形状も変えています。また、設置場所の地形はさまざまでありまして、電気柵はその地形に応じた設置が必要です。こうしたお客様のご要望にはすべてオーダーメイドでお応えしていま

す。シンプルに見えるシステムの裏側には、きめ細やかな対応と蓄積されたノウハウがぎっしりと詰まっているのです。こうした、一軒一軒への地道な対応や、市町村等への積極的なアプローチを繰り返した結果、徐々にではありますがマスコミにも取り上げられ、販路も拡大することになりました。その長年に渡るノウハウを活かした「幅広い品揃え」と「きめ細やかな対応」によって、農家の方から厚い信頼を頂くことが出来ました。

電気柵メーカー及び商社は全国で10~12社程度と小さなマーケットですが、当社は国内唯一の専門メーカーとして確固たる営業基盤を持つと共に、農林業の皆様から期待され、必要とされる企業であり続けたいと願っています。

## 顧客への思いが、グッドデザイン賞など多数の受賞へ

- 主力商品である電気柵「ゲッターシステム(商品名)」は、1998年(平成10年)に「グッドデザイン賞」を受賞しました。

本来グッドデザイン賞は、企業やデザイナーなどが創作した「優れたデザインの商品」を評価・推奨するという制度です。当社の「ゲッターシステム」は決してカッコいいデザインを意識して作ったわけではありません。あくまでもお客様の使いやすさを最優先に考え設計した事が受賞となりました。まさしくお客様本位の製品なので

す。その後も、この電気柵「ゲッターシステム」はいくつかの賞を受賞しました。2000年(平成12年)には熊本県工業大賞、2002年(平成14年)には創意工夫分野での「文部科学大臣賞」を頂きました。更に今年、第27回優秀経営者顕彰(日刊工業新聞社主催)にて社長である私自身が「一つのことを徹底的に探究する。」という姿勢を評価され「優秀創業者賞」を受賞いたしました。受賞によるメディア等の効果は大きく、全国からの多くの方々が視察に訪れるようになりました。「お客様第一主義」の取組みが、お客様から高い評価を頂き、大変光栄に存じております。このような評価を頂くことによって、社員のモチベーションも上がり、社内的にもよい効果が生まれ、いくものと大変感謝しています。

### 新たな市場開拓へ向けて

- 近年、当社の主力製品である電気柵は外国製品との激しい競争にさらされるようになりました。それでも私達は、長年培った技術と、徹底した「現場主義」により積み重ねた信用力、更にこの3月に当

社技術部門にて取得しました国際品質規格「ISO9001」の活用等により他の追従が困難な域まで昇華させていければいいなと思っております。

また、すでに韓国や中国、タイ等には出荷いたしております。米国や欧州でも(獣害による)需要が存在し、そこでは海外製の電気柵(electric fence)が多数使用されていることを確認しております。海外製の電気柵の長所短所も分かってきておりまして、短所を改良することにより世界の国々への輸出も可能ではないか等と思ったりしております。

そして、電気柵で培った技術をベースに他の分野への応用技術の確立も進めてまいります。

これまでの受賞等に甘んずることなく、創業当時の想いである「お客様第一主義」「現場主義の徹底」を理念(基本方針)に掲げ全社員一丸となって、地域社会に貢献できる企業であり続けられるよう更なる努力を続けてまいります。

これからもよろしく願い申しあげます。



熊本ファミリー銀行  
取締役頭取 鈴木 元 (2010年3月12日 訪問日現在)

農家の農作物被害の相談から、試行錯誤の末に電気柵を完成させるなど、「お客様第一主義」による徹底した探究心が、害獣による農林被害を減少させ、農家の労働負担の軽減に繋がったものとお察しします。その社会的な課題に真正面から向き合う真摯な姿勢に感銘を受けました。

八代発の地元企業が、今後は製品の輸出を通して、世界の農業分野の発展に貢献されることを祈念いたします。

(2010年4月1日より、林謙治が取締役頭取に就任しています。)



最新型電気柵本体(ゲッターエースシリーズ)



電気柵設置風景



工場見学の様子



電気柵のネットの説明



社員の皆さん

## 九州テレ・コミュニケーションズ 株式会社

代表取締役

## 太田 亨氏

設立：1978年7月

所在地：長崎県佐世保市 資本金：4,570万円

従業員：235名

事業内容：有線テレビ事業、通信事業

営業拠点：長崎県佐世保市(本社・技術センター・ショールーム)、福岡県春日市(支店)、福岡県福岡市(ショールーム)、福岡県大野城市(工務部)

調査開始から2年後の1977年に安定した場所を確定し、福岡・熊本・佐賀3県からの電波受信設備を構築しました。翌1978年に有線テレビ事業の許可を受け、有線テレビ放送会社を設立した訳です。

## 映像を通じて地域の皆様のお手伝い

- 事業を開始した直後は、長崎で放送されていない福岡・熊本等の地上波放送を受信して放送するという形態をとっていました。元々、当社を設立した理由の一つに、「地域の住民の方々へ映像を通じて豊かな生活のお手伝いをしたい」という思いがありました。

その為には、他所からの映像をただ流すだけではなく、地域の方々へ情報を伝える為の自主的な発信を行いたいと感じていました。

事業開始から3年が経過した1981年に、「テレビ佐世保」として念願の自主制作番組の放送を開始し、地域の皆様に親しまれるケーブルテレビ局としての道を歩き始めました。1993年には社名を「佐世保ケーブルテレビジョン株式会社」へと変更し、現在では身近な地元メディアとして市民に定着しています。

放送開始当初から、ずっと変わらない当社の番組制作のコンセプトは「役立つものを面白く」、「地域

の皆さまが主役」です。市内の催しや学校の行事、スポーツ大会やグルメ情報等、地域に密着した話題を地元の方に出演して頂きながら、毎日1時間お届けしています。

その他には、防災情報・市議会中継・高校野球中継等があります。そのうち、議会中継と防災情報の開始迄には、長い時間を要しました。行政機関と粘り強く交渉を行った結果、協力体制を構築でき、ようやく実現する事が出来ました。

顔の見えるサ - ビスの実現へ  
～映像から通信へ～

- 当社のメイン事業は、有線テレビ事業になりますが、最近では、有線テレビのケーブルネットワークを活用した通信事業も手がけています。具体的にはインターネット事業と電話事業です。又、当社は「顔の見えるサービス」の実現に取り組んでおり、営業・工事・サポートまでを全て自社で対応出来る体制を整えております。技術部24時間体制・ショールーム開設・インターネット無料教室等、あらゆるサービスでお客様からのご依頼にもスピーディーな対応が可能となっています。

更に、1996年には福岡エリアへの進出を果たし、2002年に現在の社名である「九州テレ・コミュニケーションズ株式会社」としま

## 当社の歴史～音響から映像へ～

- 当社は1978年(昭和53年)に長崎県佐世保市を中心エリアとする有線テレビ会社「西九州共聴株式会社」として事業を開始しました。

その前身となる音楽放送会社(現在の有線放送)を1971年(昭和46年)に郵政省電波管理局(当時)の認可を受け、設立しています。

高度成長期で人々が心の豊かさを求め始める時代でした。

音楽業界で仕事を進めていた中、これから先は、「いち早い映像情報が時代を先取る」との思いがあり、テレビ事業への進出を心に決めました。当時、長崎県には民放テレビ局が2社しかなく、放送されている番組も限られていました。残る民放を補完する為に、1975年に福岡や熊本の電波を受信するアンテナ地調査を佐世保市の国見山系で始めました。安定した状態で受信出来る場所を探すため人の踏み入らない様な山道を分け入り、幾日も山を登ったり下ったり、アンテナを立てては調査し、又別の場所を探す事を繰り返しました。

した。当社のサービスエリアは、佐世保地区のほか、福岡エリアへの進出により、春日市、大野城市、志免町、太宰府市、那珂川町、宇美町、須恵町の全域を網羅し、現在筑紫野市、粕屋町へと拡大しております。当社のケーブルを利用し、市役所や学校等、公共施設との通信ネットワーク構築にも力を入れており、そのネットワークは、春日市、大野城市に始まり、那珂川町、志免町へと広がっています。

#### 新たな展開を目指して

- 放送や通信事業は、規制緩和や技術革新が急速に進んでいる分野です。これ迄もBS、CS放送の普及による多チャンネル化や、インターネット回線の高速化等にも対応して参りました。特に最近では、地上デジタル放送への移行に伴い、ハイビジョンやVOD(ビ

デオ・オン・デマンド)、3D放送への対応等、サービスの質の向上が今迄以上に要求される様になってきています。当社では引き続き、これらクオリティの高い放送に対応すると共に、「光」化の整備を行っております。

又、地域に密着した放送局として自主放送の更なる充実を図り、当社スタジオの情報発信力を高め、「市民参加型スタジオ」に発展させたいと考えています。

当社は、経営理念の一つに、「総合情報サービス会社として地域の皆様の生活向上に貢献し、『お客様が求めるサービス』を提供する」ということを掲げています。今後も引き続き、情報発信基地として地域文化の発展に寄与すると共に、情報通信機能の充実を図り、地域の皆様の生活向上に努めて参ります。



親和銀行  
取締役頭取 鬼木 和夫

変化の激しい放送業界において、当社は地域に密着した番組の制作に永年取り組まれてこられました。これまでの様々な変化にも着実に対応され、営業からサポートまで自社で対応されるなど、「顔の見えるテレビ局」として地域の方からの信頼も絶大なものであるとお察し致します。

今後も、新たなサービスへの対応はもちろん、地域の情報発信基地としてどのような情報を発信していられるのか大変楽しみにしています。



本社スタジオ



福岡ショールーム



技術センター社屋(佐世保市)



充実のラインナップ  
82chを送り出しているヘッドエンド



前列左から鬼木頭取、太田社長、  
後列中央白石営業部長